

令和6年度 太宰府市立学業院中学校 学校関係者評価

(※評価されたものをそのまま記載しています。)

1 学校経営

- ・令和6年度は猛暑だったので、学校現場が気になっていた。学業院中学校の放送部がNHK杯で受賞したことが素晴らしかった。来年度以降は、部活動の地域移行や35人学級が気になっている。
- ・歴史ある伝統校として極めて明快な経営方針を掲げている。
- ・毎朝、登校指導を行っているが、学中の生徒がよくあいさつをしてくれる。ほとんどの生徒が、あいさつを返してくれる。小学校は、今年度の「いじめ認知」が100件を超えた。小中連携で、「いじめ0」などはどうだろうか？

2 学力向上や授業改善（ICT活用を含む）について

- ・読書量が少ない。こどもの興味関心がない。
- ・9ヵ年カリキュラムの推進、合同の研修会など通して、連携を深めてきていると思います。今後は、児童・生徒通しの交流も模索していけたらと思います。

3 生徒指導・人間関係づくりについて

- ・小学校を卒業するときとはとても幼いが、中学校でたくましくなっている。部活動も色々と頑張っている。前に学中の「無言清掃」の様子をビデオに撮って小学生に見せた。その時は、非常に良かった。また、小学生に中学生の姿を見せる機会があればそうしたい。
- ・あいさつ運動、1年生が1番元気良かった。来年は回数を増やしたらどうか。太宰府西は24日にあわせてやっている。どうにか連携したい。

4 保護者や地域とのつながりについて

- ・小中合同あいさつ運動のおかげで、小学生も進んであいさつをしてくれるようになった。今後は、回数を増やして盛り上げてほしい。地区別集会で、もちつきや夏祭りなど、生徒に発信するようになって、地域とのつながりがよくなっている。
- ・元気のいい3年生が卒業する。芝原は18名中8名が3年生なので少し心配。3年生が夏祭りやもちつきを中心でやってくれた。
- ・地域行事での交流では協力的で助かっている。地域貢献活動は、暗中模索中。掃除では芸がない。他を考えていきたい。
- ・地域とつながれてよかった。地域を含め、それが大きな家族。生まれた場所で役に立つ、認めもらうことは大切だと思う。
- ・1年を振り返り、充実していた。なるべく地域行事に参加した。学校の講話の際、3年生にあいさつをしたら拍手が起こった。うれしかった。学校・家庭・地域の三者で子どもを育ていきたい。